

# 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議議事録

と き 令和7年10月16日（木）  
午後2時00分から

と ころ 常総市役所 議会棟 2階 大会議室

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議会議録

令和7年10月16日（木）午後2時00分から第2回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を常総市役所議会棟2階大会議室に召集する。

会 議 日 程

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 協議・報告事項
  - (1) 基本目標本文（案）について
  - (2) 指標のあり方検討
  - (3) 今後の予定
- 4 その他

|       |        |       |        |         |        |       |
|-------|--------|-------|--------|---------|--------|-------|
| 出席委員  | 秋田 そら  | 野村 和叶 | 鈴木 千彰  | 岡野 一男   |        |       |
|       | 荒井 久美  | 北村 篤子 | 横島 智子  | 渡辺 潤子   |        |       |
|       | 菊池 太郎  | 前田 正文 | 川島 宏一  | 中山 奈央   | 中山 舞香  |       |
| 欠席委員  | 中島 義昭  | 青木 大  | 玉置 一真  | 佐賀 ターニャ | 鈴木 信也  |       |
| 事 務 局 | 市長公室長  | 小林 弘  | 政策調整監  | 斉藤 庸一   | 常創戦略課長 | 倉持 勝利 |
|       | 政策統括室長 | 前島 淳  | 未来創生係長 | 松永 寛人   | 未来創生係  | 栗野 真実 |

政策統括室長 本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、第2回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を開会いたします。本日の司会を務めさせていただきます、常総戦略課政策統括室長の前島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。初めに、お手持ちの資料の確認をさせていただきます。

・常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議次第

・総合戦略会議資料 資料1

・地方創生 2.0 資料 2

・第3回総合戦略開催通知

資料がそろってるようですので次に進めさせていただきます。当会議は、常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議設置条例第6条において、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができないと規定されております。本日は中島委員、青木委員、鈴木信也委員、玉置委員、佐賀委員より欠席の連絡をいただいております。よって、委員総数18名に対し、本日の出席委員は、13名ということになりますので、会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。なお、本会議については、公開を原則としており会議録を作成いたしますので申し添えます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず初めに、総合戦略会議の会長であります川島会長よりご挨拶をお願いいたします。

会 長 皆様こんにちは。本日は総合戦略会議の第2回目ということで、事務局より総合戦略の概要案をお示しいたします。皆様の忌憚のない御意見、ご議論をいただきたいと思います。今日は座席のレイアウトをお互いに議論しやすい形にさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。さて、一言申し上げますと総合戦略というのは、自治体にとって総合計画と並んで非常に重要な計画です。今後、基本計画との一体化という話も出ていましたが、自治体の最上位の計画ですので、大きな予算の動きや、まち全体の政策など市役所や地域の皆様にとって大きな方針となるものですので、皆様の意見を是非たくさん盛り込んでいただきたいと思います。計画というのは紙では意味がありません。この紙に宿っている考えや思想、思いをどう実行に移していくかがポイントです。委員の皆様がそれぞれのテーマの当事者としてどのような貢献ができるのか、どのような方向で行政と一体になってこのまちを盛り上げていけるのかという視点でご議論いただければと思います。

政策統括室長 ありがとうございました。ここからは川島会長に議事をお渡しいたします。宜しく願います。

会 長 協議報告事項に入る前に会議録署名委員を決めさせていただきたいと思います。会議録署名委員につきましては議長において指名させていただきます。よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

岡野委員，野村委員，以上 2 名を指名いたします。よろしくお願いいたします。それでは議事を進めさせていただきます。議事次第 3、協議報告事項(1)基本目標本文(案)について事務局よりご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局 説明)

- 会 長 今日の会議の議題は、大きく分けて 2 つです。1 つ目は基本目標や本文の案について、2 つ目は指標のあり方についてです。まず、基本目標としては 4 つの柱があり、その後に横断的な目標も設定されていますが、この構成で問題ないか、修正が必要か、あるいは追加すべき目標があるかという議論があるかと思います。さらに、それぞれの基本目標の内容について、例えば、「子どもまんなかまちづくり」という目標の場合、子育て環境の充実や居場所づくり、教育環境の充実といった具体的な項目が分かれています。これらの目標に付随する具体的な施策についても、現在の構成が適切かどうか、改めてご意見を伺いたいと思います。まずはその点について、皆様のご意見をお聞かせいただければと思います。また、最初にご説明がありました通り、1・2 ページで示された内容は、これまでの基本計画の大綱と整合性が取れており、さらに国の地方創生 2.0 の基本的な 5 つの柱ともバランスよく整合しています。この点については、これまでの流れを踏まえつつ、国全体の大きな動きとも一致しているということで問題はないと思います。その一方で、常総らしさやこれまでと違う点については議論が必要です。先ほど事務局から最新の動きや常総らしさに関するご説明をいただきましたが、その説明を受けて、改めて「常総らしさ」が足りていないのではないか、もしくは最新の動きが反映されていない部分があるのではないかと感じる点があれば、ぜひご意見をお聞かせいただきたいと思います。市役所の方々が気づいていない点もあるかもしれませんので、忌憚のないご指摘をいただけるとありがたいです。いかがでしょうか。
- 横島委員 市民と一緒にこの計画を実行していくにあたり、カタカナ言葉や例えば P P P など馴染みのない言葉については、分かりやすく欄外などで説明があったほうが良いのではと感じました。
- 事 務 局 そうですね。注釈等で分かりやすい表記にさせていただきたいと思います。
- 前田委員 常総市は農業が盛んな地域ですので、常総らしさという点で「農業先進都市の実現」という部分をもう少し強調しても良いと思いました。人の移動についても記載がありますが、新規就農したいという若い方も結構いるのではないかと思います。そのような方に田畑などを貸すような仲介は一つの方法としてあるかと思いました。
- 会 長 今書かれてる農業経営の強化に新規就農者支援とありますけど、これまでの常総の強みも踏まえて、活かす形がいいのではないのでしょうか。どちらかというと今回の計画案ではテクノロジー的に書かれているので、それだけではなく今までの豊かな農業の

活動も含めてうまく反映させるのが良いのではないのでしょうか。スマート農業も良いんだと思います。自動運転などと組み合わせ、生産性の高い農業に引っ張っていくという気持ちがあってもいいのかと思います。もうちょっと、常総の強みとして、書けないかと思いました。

事 務 局                    2024 年に策定した常総市農業ビジョンの中で農業先進都市を謳っております。こちらは個別計画のため細かいところまで網羅されていますが、総合戦略にどこまで載せるか改めて調整させていただき、常総らしさが出るようにしたいと思います。

秋田委員                    都市間交流拡大のところで、友好都市の締結という事項が増えている点は非常に良いと思います。また、移住定住に関してもかなり多くの字数が割かれていると思いますが、これから先に人口減少の中で、移住定住がどれだけ増えるかというと、正直、数としてはあまり多くないと思います。今のトレンドとしては、やはりその人のノウハウを複数の自治体でシェアするような、関係人口の拡大が重要になってくると思っています。私自身、最近大学のプログラムで、長野県の自治体などとも関わっており、その中で、自分の出身地でもない自治体の課題について真剣に考えノウハウを提供する方々の姿を見て非常に驚きました。ここでは、防災面での交流、大河ドラマ誘致をきっかけにということだと思いますが、実際に常総市の人々と外部の人々が交流する機会は、常総市の方々が自分たちの地域を見直すきっかけにもなりますし、新しい意見を取り入れる貴重な機会になると思います。ですので、この点は非常に重要視すべきだと私は思いました。さらに、定住・移住促進に関しても、若年層からシビックプライドを醸成する取組みを積極的に推進することが大切だということが記載されていますが、やはり地元を離れる時期が来るのは、この時期だと考えています。そのため、地元を離れる前にどれだけシビックプライドが醸成され、その土地に対する愛着や思いが深まるかが、非常に重要な観点だと感じています。

会      長                    私自身、高大連携については、長野県での事例を知っているので、大学や高校生を活用した交流の重要性はよく理解しています。ここには大河ドラマや防災交流などが記載されていますが、大学や高校が連携した活動は今盛んに行われています。高校が自主的な学びの場を設けることも増えてきていて、これらの動きと連携することは、非常に有意義だと考えています。実際、私は以前、大学の学生を連れて防災教育を行った経験がありますが、常総にはそのようなコンテンツが非常に豊富ですので、大学や高校との連携は重要だと思います。また「関係人口」をどう捉えるかは、確かに難しい問題です。定量的に評価するのは容易ではなく、どのように測るかという課題もあります。さらに、国の地方創生 2.0 の広域リージョン連携が鍵になると思います。国からの資金を巻き込むためには、広域連携が重要なポイントになります。常総の場合、防災の広域連携がありますので、既存の仕組みをうまく活用することが、非常に重要だと感じています。

北村委員                    私は教育という項目に注目しました。特に、「常総市らしさあふれる教育環境の充実」という部分です。常総市には約 40 カ国の方々が住んでいると聞いており、市内で一番大きな小学校である水海道小学校でも、かなりの割合で外国籍の子どもたちが通っています。私の家の前は通学路になっていて、外では外国語が飛び交っているような状況です。せっかくさまざまな国籍の子どもたちがいるので、英語教育のさらなる充実素晴らしいと感じました。子どもたちが国籍を超えてコミュニケーションを取るために英語を使うことができれば、インターナショナルスクールのような形で常総市もアピールできるのではないかと思います。英語教育

の強化は非常に良い方向性だと思いました。最近ショックを受けた出来事がありました。友人のお子さんが小学校に上がるタイミングで、守谷市に引っ越すことになったという話を聞きました。その理由は、水海道小学校には外国人の子どもが多く、文化や習慣が異なるため、馴染むのが難しいと感じたからです。もし英語教育が充実し、子どもたちが円滑にコミュニケーションできる環境を整えば、そうした理由で転出する人も減るのではないかと感じました。近隣への転出が多いという話もありましたので、そうした流れを減らすために何か施策があれば良いと思っています。教育はその一つの要素になり得ると思います。

会 長 非常に重要なご指摘です。外国人が多いからという理由で転出してしまうというのは寂しいですね。その逆で、外国人がいるから一緒に行きたいという雰囲気を作らないともったいないですね。

前田委員 先日、クローズアップ現代という番組を見ました。その中で、図書館を地域の人々が集まる場所として活用している自治体がいくつか紹介されていて、それはとても良い取り組みだと思いました。例えば、図書館で静かに本を読む場所と、子どもたちが集まって遊ぶなど、活用できる空間を分けるというアイデアです。常総市にも立派な図書館がありますが、今のところ、あまり活用されてないように感じています。その図書館をうまく利用するために、カスミの跡地の活用などと連携して人の流れを作ることができれば、図書館にも活気が生まれるのではないのでしょうか。また、近くには水海道第一高等学校がありますので、学生、高校生が集まる場所としても非常に良い立地だと思います。もし図書館が子どもたちや地域の人々、そして学生たちが自然と集まる場所となれば、きっと賑わいが生まれると思います。

会 長 ありがとうございます。そういう交流の場があるということは結構大切だと思います。場があつてそこでイベントがあると、自然と交流機会が生まれます。通常は違和感が先にきてコミュニケーションできないので、何か面白そうだなっていうことを体感していただくようなきっかけや機会がないとできないですね。「国際社会に対応できる力を生むグローバル人材育成します」とあるので何か具体的な施策があればその中で盛り込んでいただければと思います。

事 務 局 事務担当者では回答が難しい部分もあるかと思うので、私からご説明させていただきます。北村委員からご指摘のありました英語教育に関してですが、まさしく今、政策として進めている中心的な事業です。市長の3期目の重点施策として、「子どもまんなかまちづくり常総」を最も重要な目標に掲げており、その一環として、英語教育、特にALT（外国語指導助手）の活用をさらに拡充していこうという検討を進めています。次に、前田委員からご指摘のあった「人の動線」、特に学生をどう呼び込むかについてですが、現在、水海道の中心市街地にある旧カスミ跡地に、複合施設を建設予定です。その中には、水海道公民館（名称は変更予定）、児童センター、さらに民間の喫茶店など、商業施設も入る予定です。現状では、水海道第一高等学校の生徒たちは、学校から直接駅に向かって帰宅している状況です。この動線を変えたいというのが、私たちの目指す方向です。来年の4、5月に、この新しい施設がオープン予定ですので、そこで学生たちを新たな動線に誘導し、勉強したり、図書館で学習したり、ちょっとした交流を持ったりする場所にしたいと考えています。現在、水海道の再開発は進行中で、そうした施設が完成すれば、学生たちがその地域を活発に行き来し、地域全体に新たなにぎわいを生むことを目指しています。そういった観点から、この取組みを文章の中にも反映させているというわけです。

会 長 指標の議論もありますので、その後でもいいのですが、私が気になるのは4つの基本目標プラス1つの横断的な目標、それらの相乗効果や相互関係です。それぞれの柱をやる活動がバラバラではなくて、お互いにいい効果を生み出さないといけないと思います。子どもまんなかが人の流れを作って、いろんな仕事が盛り上がってきて、そこで安心して暮らせるようなサービスも出てくるというような相互連携が必要だと思います。カスミの跡地で1つの空間ができるということは、いろんな活動、子供向けの活動もあれば防災の活動、地域おこしもできます。そういった1つの場所を核として繋げていく、そこに行ったら偶然そういったことにめぐりあったみたいなことが起こるそれでますます発展していくと思います。では一度、次の指標の議論に移させていただきます。事務局より説明をお願いいたします。

事 務 局 (事務局 説明)

会 長 いま事務局から説明がありましたが、アウトプットやアウトカムについては、少しわかりづらいかもしれませんので、私なりに説明させていただきます。市役所の仕事というのは、市役所の方々が頑張れば、ある程度できてしまうことが多いんです。例えば、道路が混んでいるので、道路の幅を広げることに決めた場合、予算を確保し、工事を進めていけば、ある程度進められます。もちろん、地権者との調整や合意が必要ですが、それでも市役所が頑張れば、アウトプット（成果物）として道路の幅は広がります。しかし、アウトカム（結果）は別です。アウトカムというのは、実際にその道路を利用する人々がどう感じたか、という部分です。例えば、道路を広げた結果、交通渋滞が緩和され、通行している歩行者や車の人々がフラストレーションを感じなくなるのが、アウトカムです。重要なのは、アウトカムが本当に市民の生活を改善したかどうか、という点です。もし、市役所が道路を広げた場所が、実はあまり混んでいない場所、予想と違った場所であった場合、実際にそのアウトカムが市民にとって満足できるものになるかはわかりません。そのため、ただ作るだけでなく、その成果が市民の生活にどれだけ良い影響を与えたのか、という点が重要です。アウトプット、アウトカムの違いを理解するためには、視点を市民側に置くことが大切です。市役所が一生懸命に予算を作り、計画を立て、実行しても、結局市民が感じる満足度が低ければ、その施策は本当に効果的だったとは言えません。例えば、「結婚・子どもを産み育てやすい環境づくり」という施策について考えた場合、現時点で出されている指標として、「産後ケア利用希望者のうち利用に繋がった割合」というものがあります。これはアウトプットとしては良いかもしれませんが、実際には利用した人々がどれほど不安を解消されたか、満足しているかを測ることが重要です。市民の視点から見て、ケアが本当に必要な問題を解決できているか、そこまで把握することが求められます。また、公共施設の利用者数のような指標もありますが、これもアウトプットとアウトカムの中間くらいに過ぎません。利用者数が増えただけでは不十分で、実際に利用した人々がその施設で何を感じ、どれだけ役立ったと感じるかがアウトカムです。例えば、イベントに参加した人々が「本当に役立った」と感じるのが、最終的なアウトカムとなります。私が言いたいのは、施策を進める際には、市民がどう感じるか、どれだけ生活や仕事のしやすさが向上したかをしっかり測定することが大切だということです。例えば、「道路を何メートル広げました」と言うだけではなく、その結果、市民が「インターに15分以内でアクセスできるようになった」といった形で、具体的な生活改善を測ることが求められます。これからのグループ議論においては、皆さんがそれぞれの立場で、どんな

アウトカムを目指すべきかを話し合い、それをシェアしていただければと思います。特に、具体的な指標を設定し、こういった結果を望むのかを議論していきましょう。それでは今から 15 分間、グループごとに議論をしていただき、その後各グループで出した意見を共有してください。皆さんの意見をもとに、市役所の方々がまとめていく形になりますので、忌憚のない意見を出し合ってください。

(グループ協議)

会 長 時間になりました。市役所さんだけの議論だとなかなか出て出てこないような、いろんな違った目線があるんじゃないかなと思います。結論というよりも、それぞれ、個人として或いはテーブルの中での議論なり何でも少しシェアをしていただいて、それに対してまた質問があれば、そこから議論をさらに活発にしていきたいと思います。中山委員どうでしょうか。

中山(舞)委員 私自身が農業に従事している者として、やはり常総市は野菜の生産量が多い地域であることが強みだと思っています。その中で野菜の生産を進めていくにあたり、やはり補助的な支援が必要だということを前回の会議でもお話しさせていただきました。新規就農に対する補助金がありますが、問題はその後、5 年後、10 年後に支援がなくなってしまうことです。新規参入者が継続して農業を続けることが、現状では非常に難しいと感じています。例えば荒れた土地を農地として利用する際にも、大きな投資と労力がかかります。また、野菜を一つ売るのにも大変な時代です。私たちはズッキーニを生産していて、ブランド化してこだわりを持って栽培していますが、その分コストがかかります。それを野菜の販売価格に載せるとなると、一般消費者の方々にとっては買いにくい価格帯になってしまうのが現実です。大きな農家であれば、契約先がしっかりしていて、高値で取引できる可能性があります。個人農家や新規就農者、特に若い方々が農業を始めた場合、補助がないと非常に厳しい状況です。農地があるからやってみよう、という気持ちで始めても、実際には支援がほとんどないため、続けていくのが難しいという現状があると思います。

会 長 ありがとうございます。新規だけではなく、5 年以上継続するとか、その方がいいんですね。

中山(舞)委員 そうですね。私も新規就農で補助をいただいたことはありますが、その後の支援が全くないというのが現状です。お金が関わる問題なので難しい面もあるかもしれませんが、例えば毎月一定の金額が支給されるような形であれば、続けていくのはそれほど難しくないと思います。実際に経費がどんどん上がっていく中で、野菜の価格にそのコストを反映させるのは非常に難しいのが現実です。道の駅などに出荷しているのですが、安売り合戦が始まってしまうこともあります。私はその競争には参加しないようにしていますが、実際、1 円でも安い方を選ぶ消費者の方が多いのが現実です。もし私が消費者の立場だったら、限られた予算の中で、見た目が同じであれば、安い方を選んでしまうのは仕方がないと思います。

会 長 農産物の売上は統計的には分かるのでしょうか。あまり正確にはわからないのでしょうか。

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局  | 農産物の出荷額であれば、統計的に毎年出てますのでそれが代用できるかなと思います。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 会長   | 今の話に関連して言うと、やはり高付加価値を持った農業、例えばブランド化など、そういった取組みがあるかと思います。かすみがうら市でも似たような議論があって、そこでは『湖山の宝』というブランド名で、特産物を認定し、さまざまな商品に展開しています。こういった継続的な取組みや独自の生産物を生み出している農家への支援があれば、成功事例を増やしていくことができるかもしれません。ありがとうございます。それでは、岡野委員、いかがでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 岡野委員 | いま中山委員から、農業関係の現状を説明していただきました。常総市は、川の東は稲作、西の方は畑作というふうに大きく分類はできるかと思うんですが、それがうまく機能していないというのは、いわゆる後継者の皆さんに対する補助など、農業を育てようという部分がちょっと欠落してるのかなというふうに感じてしまいます。もう少し農業に対しての援助というものを、市全体の中で見ていただいて、常総市は農業生産高がすごくいい、内容もちろん立派だというものに、市全体として持ち上げていっていただければなというふうに思います。先ほどの農業関係のお話、私も同感でございます。目指すものは、農工商一体となったまちづくりですけども、昔からある農業というものを地盤にしたまちづくりがいいのかなというふうに感じました。                                                                                                                                                                               |
| 会長   | ありがとうございます。例えば、1人当たりの農業生産高が日本一、というような際立った指標を作ることができれば、注目を集めるきっかけになるかもしれませんね。もちろん、そんなに簡単なことではないと思いますが、例えば秋田県など、他の地域にも優れた農業がある中で、『これが日本一』という指標があれば、それを強調することでインパクトを与えることができるのではないかと思います。ただ、どの作物についても一概に日本一というのは難しいかもしれませんが、例えば特定の作物に関して日本一を掲げることで、ある程度の成功を収めることができるかもしれません。農業は東西で特色が違うというのも大きな個性ですし、その特徴を活かして、指標としてうまく表現できるといいですね。さて、こちらのテーブルではどうでしょうか。菊地委員、いかがですか。                                                                                                                                                                 |
| 菊池委員 | 個人的に感じたのは、基本指標の2つ目『常総に新しい人の流れを作る』と、基本目標の3つ目『稼ぐ地域をつくるとともに安心して働けるようにする』について、どう実現するかを考えたときに、こういった指標を採用するのはどうかと思いました。アウトプットになるのかアウトカムになるのかはさておきですが、いくつか具体的な指標を挙げてみたいと思います。まずは単純なところですが、水海道駅の利用者数です。観光やその他の理由で人が来る場合、当然電車やバスを使うことになるので、関鉄さんとタイアップして、バスと同じように利用者数をカウントしてみるのも一つの方法です。ホテルや旅館もいくつかありますので、業界団体と連携してホテルの利用者数や稼働率、利用目的がわかればさらに良いと思います。実際、稼働率が高いと聞いているのは、スマートインター近くの現場作業員の方々が一週間くらい泊まっているということですが、観光目的で泊まる方がどれだけいるかを測定できると、より有益なデータになると思います。次に企業誘致に関してですが、立地面積での評価も良いですが、昼間人口を把握することでも成果を測ることができると思います。どれだけ多くの方が働きに来ているのか、というの |

も一つの指標になると思います。最後に、単純かもしれませんが、飲食店やサービス業の数が増えれば、BtoC を相手にする商売ですから、利用者数が増え、地域の活性化に繋がっていることが実感できる結果として現れると思います。これらの指標は KPI（重要業績評価指標）として有効に活用できるのではないかと考えます。ご参考になればと思い、いくつか挙げさせていただきました。

会 長                   ありがとうございます。たぶん、電車の乗降客のデータなんかも取れますよね。その動きは季節ごとに把握できますし、それもアグリサイエンスバレーができたことによって、車の数が増えているのかもしれませんが、全体的に増加しているのは間違いないですよ。それに、アグリサイエンスバレーのインパクト、これはおそらく常総市さんとしてもモニタリングしていると思うんですが、かなり大きなものがあって、地域経済に与える影響は非常に大きいので、それを最大限に裨益させることが重要だと思います。それとアグリサイエンスバレーには、いちごをはじめとしたいろいろな取組みがありますが、10 年ほど前に初めてこの話を聞いたとき、あそこで農業技術に関する実験場的なものが作られて、新しい農業スタイルができて、技術を学ぶ人たちが集まるんじゃないかというようなアイデアがありました。そのビジョンが今、形になっていると思いますが、あそこで進行しているさまざまな技術、例えばハウス栽培やスマート農業などは、教育の拠点としても重要だと思うんです。結局、地域の力というのは人材の力で、それを育成する拠点がないと持続可能性が低くなってしまいます。あそこで育てられた感覚やノウハウがあると良いと感じます。そして、それが大学でなくても講座のような形でも、素晴らしい講師がいればそれでも十分に価値がある。そういった取組みが重要だと私も思います。2 つ目のテーブルいかがですか。はい、どうぞお願いします。

中山(奈)委員                   基本目標 1 の出産育児に関して、想定される指標案に出生数とありますが、具体的施策のところには、その出生数に結びつくような施策があまりないように思いました。また、個々の施策がほとんど産後の施策のような気がするので、もっと生まれる前のサポート体制等があってもいいと思います。あともう 1 つ、グループ内ではこの指標案のなかに産後同じ業種に復帰できた人の数を入れたらいいんじゃないかという意見も出ました。

会 長                   ありがとうございます。産後の復帰など、出生後に関連する取組みがあるのかという点についてですが、これもたぶん、まち・ひと・しごとの中でいろいろと進められていますよね。男女の出会いの場などの取組みもあると思いますが。

事 務 局                   市としても、出会いからサポートまで一貫して事業を行っています。今回、そこについてはあまり触れませんでした。生まれた後だけではなく、生まれる前の施策もありますので、その辺も網羅し、それを指標に活かしていければと思っています。

会 長                   ですので、おそらく指標というのは、出会いの場があり、出生が増え、その後のサポートも整っているというトータルな流れが、子育てしやすい環境を作るかどうかというのが重要だと思います。流山市や日立市など、いろいろな自治体が取組んでいますけれど、個別に見てみると、必ずしもそこが抜きん出ているわけではなく、他の自治体のほうがうまく取組んでいる点もたくさんあります。だから、結局はプロモーションが上手だということですよ。要するに、見せ方やそのまとめ方のパッケージをど

う作るかという点が大きな課題だと思います。すみません、ちょっと流れから外れましたが、こちらのテーブルで、どなたでも結構ですので、ご発言をよろしくお願いします。

- 荒井委員      こちらのグループで話が出たのですが、基本目標 1 の教育環境の充実の K P I が学校に行くのが楽しいと思っている児童生徒の割合とあります。ここは違和感がありまして教育環境が充実してるから学校に行くのが楽しいと子どもが思っているということで K P I をはかるのはどうかと思いました。やはりこちらは、保護者の方が、教育環境が充実してるという形の方が、通常ではないかなと少し思いました。
- 会      長      ありがとうございます。確かに子どもはなかなかわからないですよ。あっちの学校よりもこっちがいいとか充実してるかしてないかとかでも、そこしかないの。だから、何とかこう、アウトカム指標として考えると、子供だよねと思っちゃうんですけど、現実問題は今ご指摘になったように、親御さんの方が良いかどうか判断する目はすぐれてるのかもしれないね。
- 事 務 局      今、ご指摘のありました指標は過去の総合計画でも使われておりました。毎年学校で行ってるテストの中で、アンケートとして聞いている項目のため定点観測がしやすいという事情もございます。教育委員会とも相談をして、親御さんがそのような判断できるような指標があるのかどうか含めまして、色々な可能性を検討していきたいと思います。ありがとうございます。
- 北村委員      すみません。基本目標 4 の 2 番の 1 の地域組織の運営数という指標があります。この地域組織というのは、自治会、町内会など示すのかどうか教えていただきたいのですが。
- 事務局      はい。こちらは、まちづくり協議会というのを各地区の方と立ち上げるということで、市民とともに考える課が動いてまして、その数を今想定しておりました。
- 北村委員      ありがとうございます。なぜこのような質問をさせていただいたかというと、別の会議で、市役所の職員の方から、市の広報紙は自治会を通じて配布されているので、市民の広場の活用方法などはそれで市民の皆さんがご存じのはずだ、という発言がありました。ただ、参加者の中で実際に自治会に入っている方は、全体の人数の半分以上を少し超えるくらいだというお話を伺いました。それを聞いて、運営の数として、こうしたコミュニティの維持や強化が本当に効果的に図れるのかなという疑問を持ったので、質問させていただきました。どちらかというと、市民の人口や、実際にその地域に住んでいる人たちがどれだけ活動に参加しているかという割合の方が、指標として具体的な数字が出やすいですし、目標にしやすいのではないかなと思ったので、今回その点について質問させていただきました。以上です。
- 会      長      ありがとうございます。実際の活動はどういうものでしょうか。お祭りとかなんですかね。

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事 務 局   | 今まで、自治会単位ではなかなか成り手もないという中で、規模をもう少し大きくしたものを、まちづくり協議会として、いま運営をしているところです。しかし仰るように、実際そこに参画する人がいないと、意味あるものなのかなと言われてしまうと思います。実態をカバーできるような指標があれば、検討していきたいと思います。ありがとうございます。                                                                                                                                                                               |
| 会 長     | これは要注意の指標ですね。市役所としては、作るとしても、実際には持続せずに、頼まれたから作ったということで、二、三年で消えちゃうみたいなのがあると思います。本当にリアルな地域活動を正確に図れるのかということと微妙なところですね。                                                                                                                                                                                                                                |
| 事 務 局   | 皆さんのお手元に今のシティプロモーションの簡単なパンフレットのお配りさせていただいてます。移住定住対策とかそういったものを手段の1つとしてこんなものを常総市において作って、市外県外の方にこういったものを紙ベースで見させていただいてます。後ろのほうのページをご覧くださいますと、出会いから結婚、新生活、子育て・出産、そういった常総市としての施策が掲載されています。また、昨今よく言われていますけども、TX沿線は土地の値段が高騰し、そこから少しと離れた常総市では安くて良いをお家が建てられるなどPRしております。議論の中で、こちらの資料を参考にさせていただけたらと思い、急遽、配布いたしました。お帰りにになりましたら、もう一度ゆっくり目を通していただければと思います。以上です。 |
| 会 長     | これはとても良いパンフレッドですね。どんどん配りたいですね。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 前田委員    | 今のコミュニティの維持の項目ですが、常総市では石下地区のほうでワイガヤをやっていたように思います。例えば、水戸市は確か水戸線のひとつ駅行ったところで、ワイガヤをやったり、あと他にも茨城県の中で少しやっていました。それらをうまく発展させてコミュニティを維持するということは考えられないでしょうか。                                                                                                                                                                                               |
| 会 長     | ワイガヤについてですが、鈴木委員よろしいですか、お願いします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 鈴木(千)委員 | このK P Iの中で基本目標4「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」というものがありますが、今回の案を見ていると、主に子育て世代など、これから新しく移り住む人々が対象となっています。しかし、人口分布図を見ると、高齢者層がかなり多いことがわかりますので、この点にも注目すべきだと考えています。私たちの活動を通じて、結果的にシニア世代の方々が集まってきたのですが、私自身もシニア世代に入っている立場として、シニア層は非常に活力があり、うまく活用することで、常総の新たな魅力を生み出せるのではないかと感じています。                                                                        |
| 会 長     | 鈴木委員はたしか、具体的な名前のある活動もやられていますよね。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 鈴木(千)委員 | はい、歴史の講演会を1つ、もう1つは脳トレということでナンプレを使った講座を開いています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

- 会 長 ぜひそういう具体的な活動の参加者数など、盛り立てていけるといいですね。たしか、石下アクションプランでしたか。何かプランをお持ちでしたよね。
- 鈴木(千)委員 まだ長期的なプランではありますが、いまの道の駅と市内をどう結びつけるかについて、基礎的な部分から市民レベルで考えています。何が最適か、どんな方法が良いのかといった点について、さまざまな議論をしているところです。この話を進めていく中で、私も驚いたのですが、意外と多くの人たちが集まり、さまざまなアイデアが出てきています。そのため、ある程度形が整った段階で、常総市側にも協力をお願いできるような形で、答申書を提出できるように進めていこうというのが、現在のグループの目標です。以上です。
- 会 長 そういった活動を軸にして、いろいろなところで同じことが起こるといいですね。鈴木さんと秋田さんお2人頑張っているとお伺いしていますので。
- 鈴木(千)委員 現在、ここにいらっしゃる秋田さんも、スタカフェという学生を対象にした私塾を開いています。それに関連して、先ほど話に出ていた英語の教室も私の方で運営しているのですが、集まってくるのはシニア層が多く、その方々の能力には驚かされます。逆に言うと、そうしたシニア層をうまく活用して、子どもや親を引き寄せるというのも一つの方法だと考えています。現在、いろいろと単発で活動を行っていますが、約1年半の活動を経て、来年度はこれらのバラバラな活動をつなげて、相乗効果を生み出すことに焦点を当てて進めていく予定です。
- 会 長 素晴らしいですね。その活かされていない資源というか、もっと人材がいらっしゃるのを地域でまわしていくことが必要ですね。
- 鈴木(千)委員 そうですね。やっぱりやらないとわからないというのは改めて勉強させていただきました。
- 会 長 そういった活動の参加度合いみたいなことがあるといいですね。ありがとうございます。野村委員お願いします。
- 野村委員 友好都市の締結に関して、少し気になった点があります。それは単に締結しただけで終わってしまうのではないかということです。友好都市間でのイベントに参加することや、実際に足を運ぶことによって、互いの関係が深まることが重要だと思います。そうしたつながりがあるからこそ、遠方から訪れてもらえるきっかけが生まれやすくなるのではないかと考えています。指標としては少し難しいかもしれませんが、参加人数や交流の度合いを重視するのも一つの方法ではないかと思いました。
- 会 長 ありがとうございます。これは相互交流イベントがあるということでしょうか。

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事 務 局 | はい。既存イベントや交流事業ですね。そういった交流事業の数など指標として設定するのも良いという考えはありました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 会 長   | そうですね。協定を結びました、その協定の数はいくつというのはあんまり現実的な意味がないですね。前田委員どうぞ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 前田委員  | 私は川島会長にお聞きしたいことがあります。今回事務局から提示された案についてですが、行政の方々が悩んでるから、指標がうまく出せないよというのか、これじゃちょっといかなものかと思われたのか、そのあたりをお聞かせください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 会 長   | 感想としては、全体的にそつがない印象を受けました。子育て支援や人の流れ、地域で稼げる環境、安心・安全といった柱立ては悪くはないと思います。ただ、もう少しエッジが立った部分が欲しいというのが正直な気持ちです。住みやすく、子育てがしやすく、仕事があり、安全で交流があるというのはどこでも同じようなことが言える部分ではあります。だからこそ、常総独自の資源を活かした具体的な施策、例えば農業やアグリサイエンスバレーのようなテーマを盛り込んだ言葉にした方がいいと思います。ここにある農業先進都市の実現や農業経営の強化、農業基盤の整備などの取組みはどこでも言われていることです。これでは他の自治体と何も変わりません。常総らしい指標、地域独自の視点で示すべきです。それによって、その指標が全体にインパクトを与え、他の関連活動を引き出すような形になると思います。ですから、担い手農家数という指標だけでは一般的過ぎるので、農業全体にインパクトを与える指標にした方がいいと思います。たとえば、農業継承者数ですとか、常総として守りたい品目があれば、その品目に特化した指標にした方がいいと思います。例えば、常総のお米や特定の品目に誇りを持ち、それを守っていくための指標などです。そうしないと、単に茨城県や全国の他の自治体と比較しているだけになり、特色が出ません。指標は、関係者が見て「これなら協力したい」と思えるような言葉で表現することが大事です。それによって、地域の人たちが「自分も何かできるかもしれない」と感じ、具体的な行動を起こす動機になります。たとえば、スマート農業の活用面積という指標もありますが、これ自体は北海道でよくやっている指標です。北海道には勝てないかもしれませんが、常総ならではのスマート農業があれば、それは他の地域との差別化になります。例えば、ハウス型のイチゴ栽培が特に強みであれば、それを全国一にするという目標があれば、インパクトを持たせやすいです。そのイチゴ栽培に使われる温度や湿度管理の技術が他の作物や農業にも応用できる可能性があれば、それは農業全体に広がる連鎖的な効果を生む可能性があります。こうした「ボーリングのピンの倒れ方」のような連鎖的なインパクトが、地域の活動に広がりを持たせる重要なポイントです。1つの成功が、次々に他の活動や取組みを引き起こし、それが最終的に地域全体の活性化に繋がります。そういった意味では、もっと常総らしい指標やテーマがあれば、さらに効果的に進んでいくと思います。 |
| 前田委員  | アウトカムを出すのは非常に難しいことです。国もそうですが、大学の先生に聞いたりしながらやっていますよね。そうすると、アウトプットではなく、アウトカムを出さなければいけないと言われるんです。でも、アウトプットでは本当にだめですかと思うわけです。今おっしゃっていた内容は、ほとんどがアウトプットです。例えば、1つ1つの施策に対して『イチゴの栽培が世界一、または日本一になる』とか、『茨城県で一番になる』というものです。アウトプットであれば、行政の方々はすぐに                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

出せると思います。目標にして、それを達成するために何をすべきかを考えていけばいいわけです。ここに出てくるものは、全てアウトカムもどきなんですよ。さっきちょっと言いましたけど、足し算してみたらどうでしょうか。出てきた施策を足していくと、例えば 100%の中で数字が 10 個あったとして、それを足し算すると 110 個になる。ただし、これは均等にはならないので、その辺を考慮して、少し過重をかけて調整していただくということです。それから、もし均等化するのであれば、その基準を決めて、例えば『これが幾ら以上になったら合格』というような指標を設ける。逆に、『これが幾ら以下だったら、今回の施策は駄目だった』というような基準でもいいんじゃないかと思います。どうでしょうか。

会 長

本当に、すべてがアウトカムでなければならないということはないと思います。具体的に多くの人がある活動に取り組む意欲を持つことが大切で、それが明確であればいいんです。アウトプットに関して、皆さんが言っているいろんな活動の参加者が、本当にそれが地域の動きとして実感できれば、それが一番だと思います。ですから、後からアウトカムという言葉を出すと、どうしても皆さんの意識がそのアウトカムに縛られてしまうので、むしろ地域の方々がその指標を次に進めているんだということを意識してもらえばいい。そうすると、『じゃあ、私もこうしよう』とか、『私も参加しよう』とか、もっと言えば、『私にも関係があるな』と思えるような指標が必要です。単に物を作って『使ってください』と言って終わりではなく、そのことが市民活動を巻き起こせるような形が一番良いんですよ。市民がいろんな評価をすればいいので、アウトプットであっても別に問題ないと思うんです。まずアウトプットの結果として、皆が満足できれば、それでいいと思います。その後にアウトカムを諮るのは結構難しい部分があるので、例えば、いろんなセミナーをやった場合、その参加者数はアウトプットに近いですし、呼びかければ結構来るものです。でも、それを本当にアウトカムとして評価しようとすると、実際には具体的に何か資格を取ったり、所得が上がったりといった成果を測ることができません。なので、アウトプットの段階で十分だと思うんです。ただ、今のままで、なんとなく事務局のほうで用意したものなので、これに色をつけていく感じですかね。今日の議論を基に、次回に向けてまた改良していただければと思います。今日の段階で終わるわけではないので、次回に向けてさらにアイデアを膨らませたり、どう進めていくかを考えていただければと思います。

前田委員

今回こちらを拝見させていただいて、やはり市役所の方々が相当悩まれている様子が伝わってきました。特に、アウトカム（成果）の設定についてどうするかという点で、かなり考え込んでいらっしゃるのではないかと感じました。今日もいろいろとご提案いただいたようで、皆さんのアウトプットは形になってきていると思いますので、その点については、まずはうまくアウトプットを出していったら、もう少しうまくいかなければ、またその時点で再度考えればいいのかではないでしょうか。どうでしょうか。

会 長

アウトプットも望ましいんですが、必ずしも全てがアウトプットとして出るわけではありません。その中でも、アウトカムを意識しながら、皆さんが測れるもの、または望ましいと思うものを、皆さんの意見に基づいて作り上げていくことが大切だと思います。つまり、例えば『この指標ならば私も貢献できる』と感じられるような、一言ではなくて具体的な指標にさせていただくことが一番重要です。銀行の方であれば、貸付が増えるとか、利用が増えるといったものが具体的な成果として現れますよね。それと同じように、飲食店の数が増えることも、ビジネスにダイレクトに結びつきます。自分が何か関係していると感じら

れば、参加意識が高まりますし、地域の活動にも積極的に関わろうと思うようになる。また、地域の活動について、実際の参加者数が増えることも、自分の活動とダイレクトに結びついていると感じられます。これが地域の交流や組織化に繋がり、地域全体の活性化にもつながります。要は、地域の方々が市に頼り切らず、自分ごととして感じられるような指標を作ることが望ましいと思います。そういった意味で、次回も引き続き議論できればいいのではないかと考えています。今日の議論だけで終わらせるのではなく、次につなげるための話し合いが重要だと思います。ありがとうございます。では、事務局にお戻します。

事務局

ありがとうございます。今、委員長のほうから関係者が協力したいと思えるような指標の設定が重要だというアドバイスをいただきました。さらに、私が途中でお話を伺っていた中で、市民の方々に興味を持っていただけるような指標が望ましいのではないかと意見もいただきました。そのようなご意見を踏まえまして、早急に指標の組立てを行い、庁内で調整を図った上で、次回の会議にお示しできるようにしたいと考えております。次に、今後のスケジュールについてご説明させていただきます。本日が第2回目の総合戦略会議となりますが、次回は11月20日に予定しております。こちらについてスケジュールのご調整、出席・欠席の意思表示を11月6日までにご連絡いただければと思います。その際、資料が完成しましたら、メールまたは郵送でお手元にお届けいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。スケジュールにつきましては以上でございます。

会長

最後に、その他の議案についてお尋ねいたします。今日の指標や基本目標以外で、この場で何かご意見やご報告事項があれば、お聞かせいただけますでしょうか。いかがでしょうか。はい、それでは特にご意見がないということで、以上をもちまして本日の協議報告事項はすべて終了となります。進行へのご協力、並びにご審議、誠にありがとうございました。それでは、事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。本日は忌憚のないご意見をいただき、誠にありがとうございました。次回の日程について改めてご報告させていただきますが、お手元の通知文に記載されているとおり11月20日（木曜日）午後1時からを予定しております。恐れ入りますが、ご都合の調整をお願いいたします。本日の議事はこれですべて終了となります。なお、委員報酬に関しましては、報酬辞退の申し出をいただいた方を除き、条例に基づき、各自ご登録いただきました口座に後日お振り込みさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、第2回常総市まちひとしごと創生総合戦略会議を閉会とさせていただきます。ご協力、誠にありがとうございました。

（16時00分 会議終了）

上記の議事の正確なることを証するためここに署名する。

令和7年 11 月 20 日

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

会 長 川 島 宏 一

署名人 関 野 一 男

署名人 野 村 和 叶